

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中学生の部



令和八年八月度 入賞句一覧

投句数 五百五 句

特選

高木 恵理 選

かきごおりうみでたべるとなみのおと

大垣市

いとう ほのか（小三）

この俳句の面白さは、かき氷を食べたときに「波の音」が聞こえたという発想にあります。かき氷の俳句は、見た目や味わいをよむ作品が多いのですが、掲句は聴覚へと視点を広げています。「ざぶん」という波音が、読み手を海辺へと誘い、広い海の景色だけでなく、波の動きまで感じさせてくれます。夏の海がいきいきと立ち上がってくる俳句です。

ひまわりのたねには夏がつまつている

大垣市

栗田 明日菜（小二）

夏といえばひまわりですが、その「たね」に夏が詰まっているという発想が新鮮です。ひまわりの花びらがしおれてくるころ、真ん中でたねが育ち始めます。たねは、青い空や入道雲、夕立、夏の風、そして作者が過ごした夏の思い出までずつと見つめてきたのですね。小さなたねの中に、夏の時間がぎゅつと詰まつていることに気付かされる俳句です。

弟とヒミツの会ぎ月涼し

大垣市

木村 心音（小五）

「ヒミツ」というカタカナが、わくわくした感じをうまく伝えていきます。夏の夜、いつもより少し遅くまで起きて、弟と二人でそつと相談しているのでしょう。小さな声で話すその部屋に、夏の月がぼんやりと差し込み、ほんのりとした涼しさを運んできます。昼間の暑さとはちがう静かな夏の夜が、二人のヒミツの会議をやさしく見守っているようです。

秀逸

銀行のガラスに映る夏の空

大垣市

西脇 大翔（小六）

夏休みなぜか行きたい学校に

大垣市

山本 琴子（小六）

すいか割り割れた瞬間いいにおい

大垣市

赤木 咲月（小六）

夏の雲海に行こうとよんでいる

東京都杉並区

石水 晴樹（小四）

ホテル見て離れた祖父を思い出す

大垣市

垣地 創太（中三）

入選

小中学生の部

夕立だあわてて閉めた部屋の窓

大垣市

こはら あやか（小六）

かきごおり白いてっぺん赤くする

大垣市

水谷 美琴（小六）

家の中蚊取線香活やく中

大垣市

安田 雫（小六）

ささ竹のかざりの星と夜の星

大垣市

安田 美月（小六）

ひまわりはとなりどうしで会話する

大垣市

安藤 未遥（小四）

なつまつりあちらこちらにいいにおい

大垣市

かなみ めい（小三）

日がくれて遊具まんきつ夏の風

大垣市

中村 朱里（小五）

ひるごはんそうめんたべてハッピーだ

大垣市

川合 環奈（小三）

暑い中みんなで走りパスつなぐ

大垣市

水谷 日南果（小六）

せみしぐれ天守にひびく大垣城

神奈川県鎌倉市 和田 啓誠（小三）

選者吟

西瓜切る地球の水のあふれだし

恵 理

